

生神女讃詞

8調

月曜日

ザピエフ



光栄は父と子と聖神に帰す、いまもいつも世——世に アミン

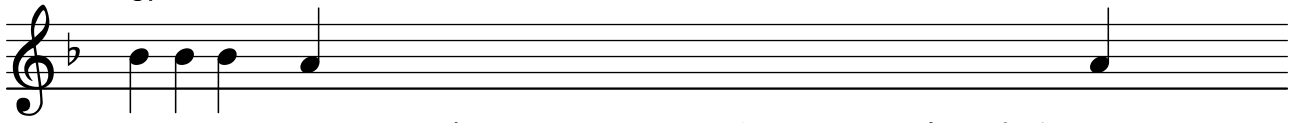
1.

2.



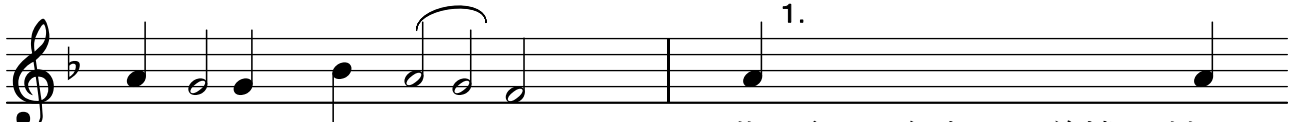
いさぎよ 潔き神のははよ 我信を以て おおいの下にはしりつく

3.



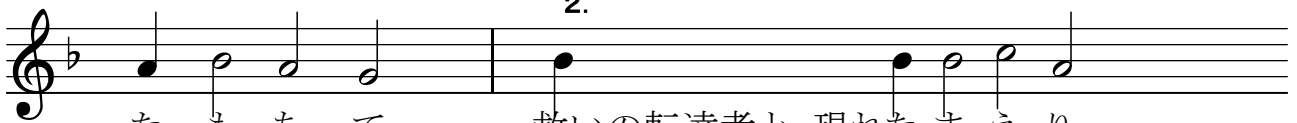
われを 憂いとわざわい、諸欲のなやみと 悪鬼の毒害より

1.



すくい たま—え。 蓋爾は、女宰よ、慈憐の淵を

2.



たもちて 救いの転達者と 現れたまえり、

3.



仁慈なる か—み、 ひとり 至りて 洪恩にして



仁慈なる主を 生みたれば な—り。

生神女讃詞

8調 火曜日

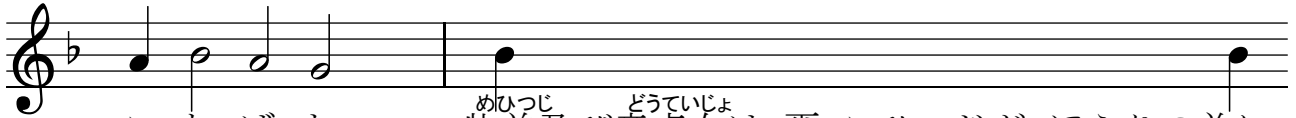
ザピエフ



光栄は父と子と聖神に帰す、いまもいつも 世——世にアミン

1.

2.



ことばよ、
言

^{めひつじ} 牝羊及^{どうていじよ}び童貞女は 爾 こひつじが ほふりの為に
焔 屠

3.



ひかるるを 見 て、 涙を流して 後に ^{あと} ^{したが} 随いて よべーり

1.

2.



吾が子よ、いずこにいそ—ぐ
何処

^{かんあい} 甘愛 なる—ものよ、

3.



我 爾とともに 行—く 大仁慈なる イ イ ス—ス よ、

終結



我 爾と別るるに 忍びざれば な—り

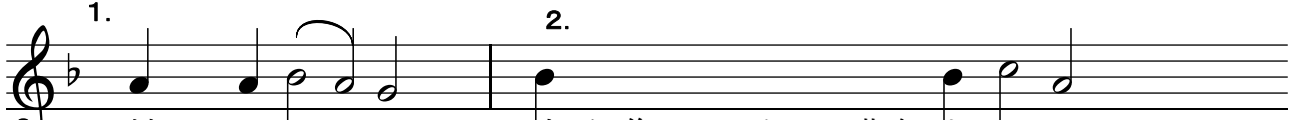
生神女讃詞

8調 水曜日

ザピエフ



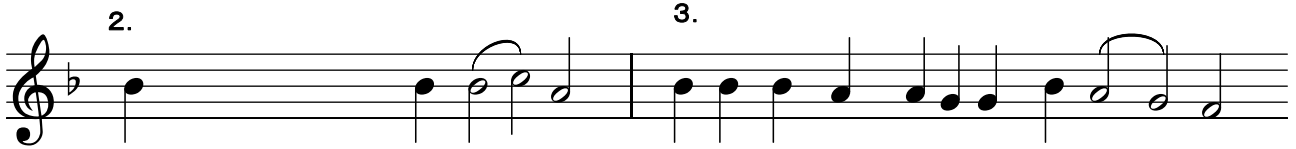
光栄は父と子と聖神に帰す、いまも いつも 世— 世にアミン



1. 神のよめ—よ、 2. 我が傷める心の嘆息を見よ、

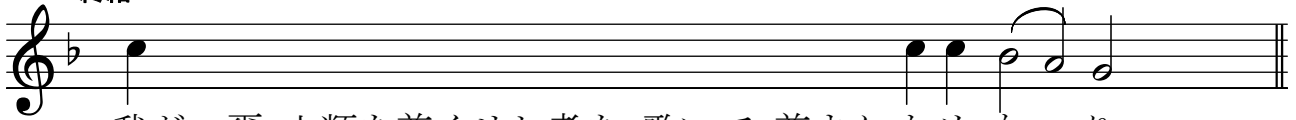


3. 純潔無てんなる 童貞女 マリヤよ、 1. 仁愛なるによって



2. 我が手を挙ぐるを容れ—て 3. これをしりぞくるなか—れ

終結



我が 爾 人類を尊くせし者を 歌いて 尊まんためな—り。

生神女讃詞

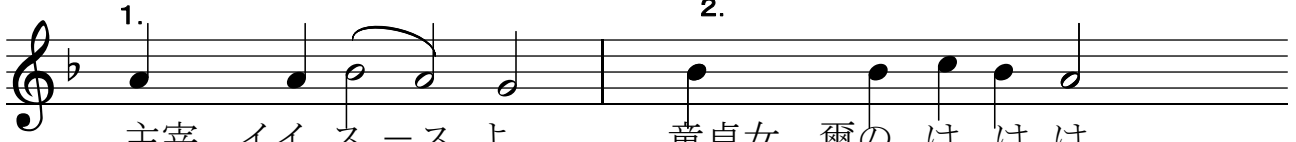
8 調木曜日

obihod

ザピエフ

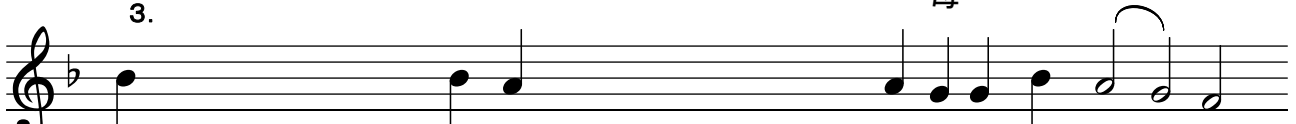


光栄は父と子と聖神に帰すいまも いつも 世——世 にアミン



1. 主宰 イイ スースよ、

2. 童貞女、爾の は は は
母

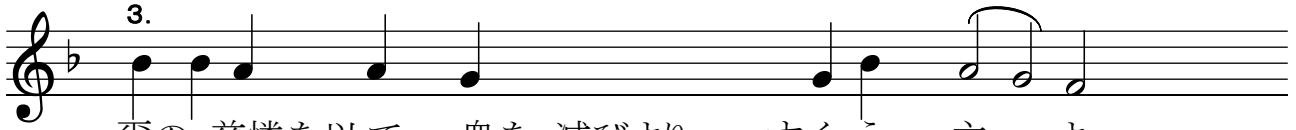


3. 爾が 十字架に 釘せられ自由に苦しみを 受くるを見て 呼 べーり、
てい



1. 嗚呼、我が甘愛 なる子、
かんあい

2. 人類の 不能を癒す 医師
ふのう いや




3. 爾の 慈憐を以て 衆を 滅びより すくう 主 —よ、
救

終結



如荷ぞ 非義なる 傷を し の — ぶ
ひき


< 光荣 … 生神女讃詞 [ドグマティック] > (第 8 調) 金曜日



光荣は父と子と聖神にきすいまもいつも世 世にアミン



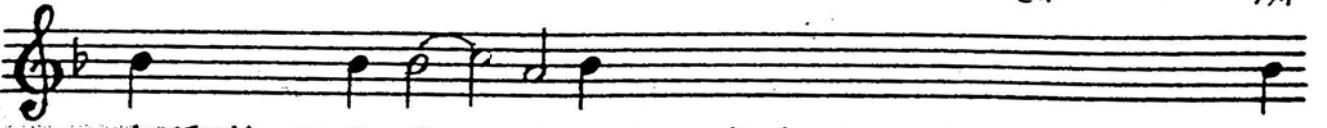
天の王 は人を愛するにより て地にあらわれ 人と



ともにいませ り けだしきよき童貞女より身をとる人



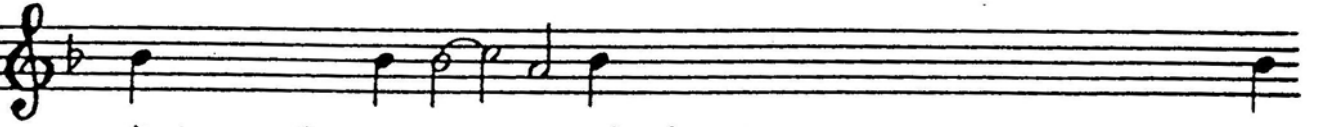
の性をたもちて生まれしものは ふたつの性にて一つの位



ある独一子なりゆえに我等彼がじつに全き神と全き



人となるをつたえて 父とわが神をうけみと むおと



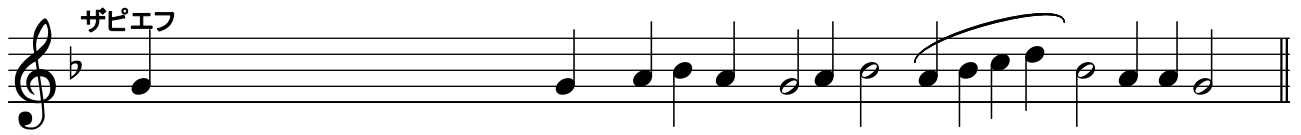
を知らざるはは や我がたましいのあわれみをこゝむら



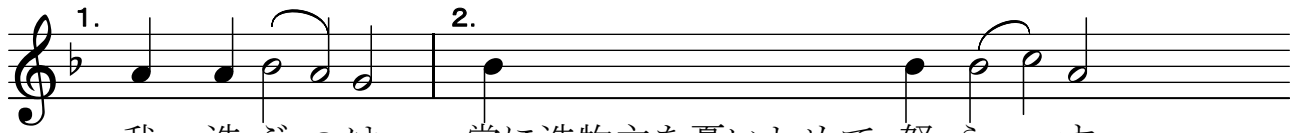
ことをかれにいのりたまえ

生神女讃詞

8調 日曜日



光栄は父と子と聖神に帰す、いまも いつも 世— 世にアミン



我 造ぶつは 常に造物主を憂いしめて 怒ら す



少女よ 我に 悔改かいかいを与えて我をあらた - め 爾の助けをもつて



神を 悦よろこばしむる行いに 導き たま— え 我が赦罪と 救いとを



得んが ため な— り。